

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 172	提案機関名 神奈川県植木生産組合連合会 (かなめ研)
要望問題名 観賞樹導入遺伝資源の特性評価と普及	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模 (面積、数量等) 】 神奈川県は首都圏の主要な植木産地であり、これまでも多くの新樹種・品種の導入・生産により産地としての地位を維持してきた。近年は不況の影響により需要低迷が続いたが、今後の景気回復や2020年東京オリンピック開催に向け、首都圏、特に都市化の進んだ地域での新たな需要が見込まれる。 これまで観賞樹木の新樹種の導入・普及ではフラワーセンターの優良種苗配布事業の果たす役割が大きかったが、この事業の廃止により現在は植木連 (かなめ研) がこの役割を担っている。新樹種等の導入・普及には遺伝資源の特性評価が重要であり、県内生産者への普及に当たっては試験研究機関での特性評価が望まれる。現在農業技術センターで保有している遺伝資源の評価並びに、今後普及が期待される新たな遺伝資源の導入・評価をお願いする。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 地産地消を加速する品種の選定 (5)花き・観賞樹の品種特性検定 イ 観賞樹の品種特性検定			
対応の内容等 これまでにフラワーセンター大船植物園において収集・保存を行ってきたアセビについて特性調査を行いました (対応区分④)。 今後、コトネアスター類等について、その特性調査を行い有望樹種・品種の選定を行います (対応区分①、解決予定年限②)。 新たな遺伝資源の導入については、従前は主に公共機関等が行っていましたが、物流や情報収集方法が発展した現在では、民間企業等が主流となっています。新資源の探索は、幅広い視点で実施する必要があることから、県植木生産組合連合会や関連機関との協力し、既存の遺伝資源を含めて導入すべき樹種の特性調査方法について検討していきます (対応区分③)。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			